

資 料

関西福祉大学の体育系部活動における緊急時対応計画の作成状況

Development status of emergency action plan in athletic clubs of Kansai University of Social Welfare

吉岡 哲^{*1}・大沼 勇人^{*1}・熊野 陽人^{*2}
山口 幸一^{*1}・山本 浩二^{*1}

要約：関西福祉大学の運動部における緊急時対応計画の作成状況を明らかにし、運動部活動における安全な環境づくりのための基礎資料を得ることを目的とした。関西福祉大学の指定強化クラブであるサッカー部、硬式野球部、陸上部、剣道部、男子バレーボール部、女子バレーボール部の6つの運動部を対象とし、配布法による自己記入式アンケート用紙を用いて調査した。調査項目は、回答者の基本属性、所属部における緊急時対応計画の作成状況および安全な環境づくりのために必要であると考ええることについてとした。6つの運動部の全てから回答が得られた（回収率：100%）。6運動部全てにおいて、緊急時対応計画、あるいはそれに類するものは作成されておらず、半数は緊急時対応計画自体を知らないことが明らかになった。一般社団法人大学スポーツ協会は、緊急時対応計画の概念を大学スポーツ内に広めることが、安全安心なスポーツ環境を構築する第一歩であるとしているが、関西福祉大学では、十分に認知されていないことが明らかになった。また、運動部活動の安全な環境づくりのために必要であると考ええることについて、「緊急時対応計画の作成」との回答が50.0%であったのに対し、83.3%が「医師やトレーナーの配置」とし、多くの指導者が、専門職の配備が運動部活動の安全な環境づくりに資すると考えていることが明らかになった。

Key Words：EAP、部活動、安全管理

I. はじめに

スポーツ活動においては、捻挫等の比較的軽微な事故だけではなく、頭頸部外傷、心停止等、生命の危機につながる重大な事故が発生する可能性がある¹⁾。大学スポーツにおける重大事故は毎年一定数発生しているが、これに対応する十分な安全のガイドラインを整備していない大学・競技団体もあるのが現状である¹⁾。スポーツ活動時において発生する事故や傷害に対し、指導者や救護関係者が迅速、かつ適切に対応するためには、あらかじめ発生しうる事故や傷害を予測し、発生時に対応するための準備をすることが重要である。事故や外傷が発生する前にさまざまな状況を想定し、それらに対応するための具体的な行動計画を緊急時対応計画（Emergency Action Plan：EAP）といい²⁾、一般社団法人大学ス

ポーツ協会（UNIVAS）の安全安心ガイドラインにおいても、大学スポーツにおけるEAPの整備の重要性について記されている¹⁾。

EAPは、施設情報、医療機関連絡先リスト、事故発生時の119番通報の手順、119番通報後の一次救命処置の流れ、救急車誘導ルート・施設マップ、緊急対応の連鎖（責任者の役割、連絡の順序等）によって構成される³⁾が、EAP作成にあたっては、競技特性や競技のルールを理解しておかなければならない⁴⁾。すなわち、競技特性に応じたEAPを作成する必要がある。独自のEAPテンプレートを作成している競技団体も存在する⁵⁾。そのため、運動部ごとに、独自のEAPが作成され、安全管理に努められているものと推察する。

本研究では、関西福祉大学の指定強化クラブである6つの運動部を対象にアンケート調査を実施し、EAPの作成状況を明らかにし、運動部活動における安全な環境づくりのための基礎資料を得ることを目的とした。

II. 方法

本調査は、2020年11月に実施した。

2020年12月1日受付／2021年1月21日受理

^{*1} YOSHIOKA Akira
OHNUMA Hayato
YAMAGUCHI Koichi
YAMAMOTO Koji
関西福祉大学 教育学部

^{*2} KUMANO Akihito
関西福祉大学 社会福祉学部

表1. 回答者の基本属性

	(人)	(%)
役 職		
部長／副部長	1	16.7
監 督	4	66.7
コーチ（学生コーチ含む）	1	16.7
指導歴（部長歴）		
1年未満	1	16.7
1～3年	1	16.7
5年以上	4	66.7
所属部における指導歴（部長歴）		
1年未満	1	16.7
1～3年	3	50.0
5年以上	2	33.3

表2. 所属部におけるEAPの作成状況および安全な環境づくりに必要であると考えること

	(人)	(%)
所属部における EAP の作成状況		
ある	0	0.0
ない	6	100.0
EAP を知っているか		
知っている	1	16.7
聞いたことはある	2	33.3
知らない	3	50.0
EAP を必要だと思うか (n=3)		
思う	3	100.0
思わない	0	0.0
今後、EAP を作成する予定はあるか (n=3)		
ある	2	66.7
分らない	1	33.3
EAP を作成していない理由は何か(n=3)		
考えたこともない	1	33.3
どのように作成してよいかわからない	2	66.7
部活動の安全な環境づくりに必要であること(複数回答)		
医師やトレーナーの配置	5	83.3
EAP の作成	3	50.0
器材の増設	2	33.3
BLS 等の研修会の実施	2	33.3

関西福祉大学の指定強化クラブであるサッカー部、硬式野球部、陸上部、剣道部、男子バレーボール部、女子バレーボール部の6つの運動部を対象とし、代表者1名から回答を得ることとした。調査は、配布法による自己記入式アンケート用紙を用いて実施した。書面を用いて、調査に関する説明を口頭で実施し、同意を得た上で調査を実施した。

調査項目は、回答者の基本属性（性別、年齢、所属部、役職、指導歴、所属部における指導（部長）歴）、所属部における EAP の作成状況および安全な環境づくりのた

めに必要であると考えることについてとした。

結果は、回答者数（人）および全回答者数に対する回答者数の割合（％）で示した。

Ⅲ. 結 果

6つの運動部の全てから回答が得られた（回収率：100%）。

回答者の基本属性を表1に示した。回答者は、21～39歳の男性であり、「監督」が66.7%であった。回答者の指導歴（部長歴を含む）は、「5年以上」が66.7%と最も多く、所属部における指導歴（部長歴を含む）は、「1～3年」が50.0%、「5年以上」が33.3%であった。

所属部における EAP の作成状況および安全な環境づくりのために必要であると考えることについて表2に示した。6運動部全てが、EAP、あるいはそれに類するものは「ない」と回答し、50.0%はEAPを「知らない」と回答した。EAPを「知っている」「聞いたことはある」と回答した者全て（3名）が、EAPは必要であると思う」と回答し、そのうち66.7%は、今後、EAPを作成する予定が「ある」と回答したが、同じく66.7%は「どのように作成してよいかわからない」と回答した。運動部活動の安全な環境づくりのために必要であると考えることについては、「医師やトレーナーの配置」と回答した者が83.3%と最も多く、「EAPの作成」は50.0%、「器材の増設」と「研修会の実施」は33.3%であった。

Ⅳ. 考 察

関西福祉大学の指定強化クラブである6つの運動部を対象にアンケート調査を実施し、運動部におけるEAPの作成状況および安全な環境づくりのために必要であると考えることについて明らかにした。その結果、6運動部全てにおいて、EAP、あるいはそれに類するものは作成されておらず、半数はEAP自体を知らないことが明らかになった。また、運動部活動の安全な環境づくりのために必要であると考えることについて、「EAPの作成」との回答が50.0%であったのに対し、「医師やトレーナーの配置」との回答が83.3%と多かった。

全米アスレティックトレーナー協会は、2002年に発表した基本方針にて、スポーツ活動を支える組織やイベント開催者は、緊急時の計画を策定し、活用することを推奨している⁶⁾。それから十数年が経過し、本邦においても、UNIVASの安全安心ガイドライン¹⁾に大学スポーツにおけるEAPの整備の重要性について記述される

等, EAP の普及, 啓蒙が進められ, 広まりつつあるものとする。しかしながら, 関西福祉大学における 6 運動部全てにおいて, EAP,あるいはそれに類するものは作成されておらず, 半数は EAP 自体を知らなかった。UNIVAS は, EAP の概念を大学スポーツ内に広めることが, 安全安心なスポーツ環境を構築する第一歩である¹⁾としているが, 関西福祉大学では, 十分に認知されていないことが明らかになった。EAP を「知っている」「聞いたことはある」と回答した者のうち 66.7% は, 今後, EAP を作成する予定が「ある」と回答したが, 同じく 66.7% は「どのように作成してよいかわからない」と回答した。競技団体等から EAP のテンプレート⁵⁾や EAP 作成ガイドライン⁷⁾が作成され, インターネット上に公開されているが, 十分な普及には至っておらず, EAP の重要性の普及・啓蒙だけではなく, EAP の作成方法についての普及・啓蒙方法についても検討が必要であるものとする。

運動部活動の安全な環境づくりのために必要であると考えることについて, 「EAP の作成」と回答した者が 50% であったのに対し, 83.3% が「医師やトレーナーの配置」とし, 多くの指導者が, 専門職の配備が運動部活動の安全な環境づくりに資すると考えていることが明らかになった。詳細は不明であり, 推察に過ぎないが, この結果は, 回答者が, 大学スポーツにおいても, 指導者と医療スタッフなど, 分業化が望ましいと考えている,あるいは現状, 対応できていると考えている, のいずれかであるものとする。EAP は, スポーツ活動に直接関係しているスタッフ全員で作成し, 実施することが望ましい⁸⁾とされ, 新しいスタッフが加入した際も, すぐにその計画が実行できるように書面として記載されていなければならないとされる⁸⁾。このことから, 現状の対応の可否ではなく, 将来のことを踏まえた EAP の作成, 人材配置, 研修会の実施, 器材の増設をすることが運動部活動の安全な環境づくりに資するものとする。

V. まとめ

関西福祉大学の指定強化クラブである 6 つの運動部を対象にアンケート調査を実施し, 運動部における EAP の作成状況および安全な環境づくりのために必要であると考えることについて明らかにした。その結果, 6 運動部全てにおいて, EAP, あるいはそれに類するものは作成されておらず, 半数は EAP 自体を知らないことが明らかになった。また, 運動部活動の安全な環境づくり

のために必要であると考えることについて, 「EAP の作成」との回答が 50.0% であったのに対し, 「医師やトレーナーの配置」との回答が 83.3% と多かった。

謝 辞

本研究の実施にあたり, ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 一般社団法人大学スポーツ協会 安全安心委員会・安全安心作業部会. 安全安心ガイドライン. 2020
- 2) 山本利春. ケガや事故に苦しむ選手を出さないのも指導者の役割. コーチング・クリニック 2018; 4: 4-7.
- 3) 山口淳士. EAP を作成して「もしも」の瞬間に備える. コーチング・クリニック 2018; 4: 8-11.
- 4) 清水伸子. 緊急時対応計画 (EAP) を作成して備えよう. トレーニング・ジャーナル 2020; 8: 23-26.
- 5) 日本ラグビーフットボール協会安全対策委員会. 日本ラグビーフットボール協会 EAP テンプレート (2020 年度版). <https://www.jrfuplayerwelfare.com/> accessed on 29 Nov, 2020
- 6) JC. Andersen, RW. Courson, DM. Kleiner et al. National Athletic Trainers' Association Position Statement: Emergency Planning in Athletics. Journal of Athletic Training 2002; 37: 99-104.
- 7) 公益財団法人日本 AED 財団スポーツ部会. エマージェンシーアクションプラン作成ガイドライン. https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/EAP_Sports_guideline.pdf accessed on 29 Nov, 2020
- 8) RP. Pfeiffer and BC. Mangus. テキスト版アスレティックトレーニング. ブックハウス HD. 2000